

隣保館だより

編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1
電話：72-1191 (FAX兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



ひと たいせつ 人を大切に する心を育てる 心のそだ

5月から2月までの間、毎週火曜日が小学生、毎週木曜日が中学生の学習会が開かれるのに先立ち、開講式が5月13日に行われました。

開講式には小学生19人、中学生9人と小中学校の先生、自治会長や保護者のほか、教育委員会と隣保館の職員が出席し、それぞれ激励の言葉を児童生徒に送りました。

また、児童生徒の代表が、1年間の目標や、休まず学習会に参加するなど決意を発表しました。

小学生学習会

小学生の学習会は5月20日から始まり、5月27日と6月3日は、老人憩の家で花を育てようと、榎の美老人会の皆さんに指導いただきながらプランターを作り、花を植えました。



「夫してかわいいプランターに

花植えのあとは全員で頭

体操。簡単な算数のプリント問題に挑戦して、老人会とつしよに交流を深めました。

中学生学習会

中学生の学習会は、5月15日から始まり、5月22日、29日の学習会では、これまでの教科学習と人権学習のほかに、月に一度隣保館が行う地域学習が加わったことが、隣保館長から説明がありました。

地域学習では、人を大切にする心を育て、いじめや偏見・差別をしない・させない・負けないための学習や活動をする予定ですが、学習を充実させるためのアイデアをみんなで話し合いました。

ほかほか教室を開きました

5月14日のほかほか教室は、D・Sポツの高橋伸也さんの指導で、セラバンド(ゴムバンド)を使ったストレッチ体操や、しゃんけん(しゃんけん)の活性化を促す運動を行いました。

農繁期ということもあり、足腰が痛いという人が多かったのですが、ストレッチ体操がとても気持ち良かったと喜ぶ声も聞かれました。

梅雨を乗り切る

メニューで料理教室

6月5日、隣保館学習講座の料理教室を開きました。

飯島好江さんの指導で、旬のえんどう豆や梅を使い、全部で5品の料理を作りました。

いずれも食欲をそそる献立ばかり。梅雨を乗り切るのにぴったりのメニューで、参加者にとっても好評でした。



しっかり食べて梅雨を乗り切りましょう

7月の学習講座予定
■編み物 12日(土) 午後1時～
老人憩の家(講師 安達利子さん)
■生け花 15日(火) 午後7時30分～
下榎集会所(講師 生田清子さん)
一日程など変更になることがあります。
詳しくは下榎隣保館へどの講座も2時間の予定です。お気軽に参加ください

自分だけの器を作ってみませんか
塚本正夫さんを講師に迎え、新しい学習講座「陶芸教室」を3回に分けて行います。どうぞ参加ください
日時 7月7日(月)…形作り、28日(月)…絵付け、
8月4日(月)…作品鑑賞
※時間はいずれも午後1時30分～午後4時30分
場所 下榎隣保館
参加費 500円

人権のまち ひの

2008年6月

障がい者問題について考える

4月23日に山村開発センターで開かれた2008年度町人権・同和教育推進協議会総会に引き続き研修会が行われ、セルプひの(根雨)の田子功司所長による講演が行われました。

セルプひのは、障がいがある人たちが自立を目指し、いろいろな作業などを通して日常生活訓練と収入を得るための通所施設で、社会福祉法人祥和会が2005年4月に開設しました。

今回の講演は、「地域で共に暮らす」という演題で、田子所長が日ごろのセルプひのの活動や、障がい者と地域との関わりなどについて話しました。今回はその内容を紹介します。

セルプひのの活動について

セルプひのは、現在郡内を中心とした20人の利用者があります。仕事の内容は、花壇・プランター管理などの受託事業と、せんべい・クッキー・パンなどの食品や草花の営業販売、刺し子などの手芸品や木工品を作る自主生産などです。手づくり絵馬は金持神社でお土産品として販売されています。

このほか、オシドリの観察



参加者に訴えかける田子所長

シーズンには、出張販売「ほっとプレス」をオシドリ観察小屋付近で開いたり、各種イベントでも出張販売を行っています。

障がい者問題とは

「障害者自立支援法」により、2006年から、障がい者も施設利用料を自己負担することになり、自立どころか障がい者の生活を圧迫している状況も生まれています。

障がい者は社会経験が少なく、それが誤解や偏見につながっている面もありますが、最近では、障がいも一つの個性として受け入れられ始めています。

ヘレン・ケラーの言葉に「障がい者は不自由であるが不幸ではない、不幸にしているのは健全者である」というものがあります。障がい者問題は障がい者自身の問題ではなく、障がい者を排除する人の問題だと考えます。

地域とのつながりが経験に

セルプひのでは、始めに紹介した事業のほかにも、町駅伝大会など、いろいろな行事に参加し、地域の皆さんと交流を図っています。こうした経験を積み重ねることによって、利用者にもいい変化が現れているようです。これからも積極的に参加していきたいと考えています。

また、祥和会では、町内に障がい者が共同生活を送るグループホームも運営していますが、地域の皆さんに温かく受け入れていただいています。誰もが希望を持って幸せに暮らせるまちが良いち。皆さんも、これからも私たちの催しなどに来てほしいと思います。



会場では出張販売も